

コロナに負けない ボランティアの力

得意なことを生かして地域に元気を届けます！

相模原市ひとり暮らし高齢者等給食サービスでは、毎年、利用者の皆さんに地域の方々による手作りのプレゼントをお届けしています。今年は、南区内のボランティアの方々を中心に、330枚のカレンダーを作成していただきました。カレンダーに添える700枚の絵や書は、学生や絵画サークル、地域の方々が協力してくださいました。

「手作りのカレンダーに思いをこめて」昨年引き続き協力いただいたのは、相模女子大学 中文学部・高専部の書道部と JRC（青少年赤十字）部。書道部部長の秋葉さんは、「書は展示することはあっても、プレゼントする

これはなかなかないので、誰かの手元に届くのはとてもうれしい。コロナウイルスに負けないよう、皆さんに元気をお伝えしたいです。」と話してくれました。JRC部の皆さんは、「感染対策をしながらの学生生活で、例年に比べてボランティア活動も少なくなっています。受け取る方の顔を想像しながら楽しく書くことができました。」と話してくれました。

様々な画材を使い、色々な作品を描いてくださったのは、県立上鶴間高校美術部の皆さん。花言葉で「不可能はない」という意味を持つ「青いバラ」を描いた学生は、「年を重ねても様々なことにチャレンジして欲しいという思いを込めました。」と話してくれました。

蒼水会の作品で華やかになったカレンダー



見て楽しめる言葉とデザインを考える書道部の皆さん



部活動をそのまま生かしてボランティア活動に



蒼水会の作品で華やかになったカレンダー

会は、昨年に引き続き、風景画など高齢の方にもなじみやすい絵を、一枚一枚丁寧に描き上げてくれました。「利用者の方々から絵を見て喜んでいただけたら、私たちもうれしいです。」と笑顔で話す代表の宮代さん。

専門職による無料相談会を開催します！

○弁護士による財産・相続・人間関係の困りごと・成年後見制度利用などの相談

日時 2月24日(水) 午後1時20分～4時
対象 高齢者・障がいのある方とその家族(1人40分間)

○司法書士・税理士等による成年後見制度や後見人の業務に関する相談

日時 2月 4日(木) 午後2時～3時 行政書士
2月12日(金) 午後2時～3時 司法書士
2月18日(木) 午後2時～3時 税理士
2月25日(木) 午後2時～3時 社会福祉士

対象 親族後見人や福祉施設等の職員として成年後見制度に関わる方、制度の利用を考えている方(1人30分間)

申込 電話による事前申込み 042-756-5034
問合せ さがみはら成年後見・あしんセンター(あじさい会館2階)

防災力アップ講座

～コロナ禍における災害ボランティアのかたち～

災害時に設置されるボランティアセンターについて学び、私たちが日頃からできることについて考える講座です。

日時 1月24日(日) 午後1時30分～3時30分(受付午後1時～)
場所 相模原市立産業会館4階特別会議室
講師 高山弘毅氏(Nukiito代表)
定員 40名(申込先着順)
問合せ 中央ボランティアセンター
申込 ☎042-786-6181 FAX042-786-6182
svc@sagamiharashishakyo.or.jp

福祉コミュニティ形成事業

～「みんなて『気軽に』、『楽しく』!!」～ 南区事務所 ☎042-765-7065

「地区社会福祉協議会」が中心となって、地域の福祉課題(困りごと)を発見・共有、解決に向けた仕組みづくりを検討し、実践する「福祉コミュニティ形成事業」。「交流の場づくり」、「見守り活動」、「困りごと相談窓口」など、地区ごとに取組は、様々です。今回は、活動を支える地域の皆さんの声を取りあげ、一緒に活動していただける方を大募集！

新磯

新磯ちよこつとサポートしたい

恩返しができるかとサポーターに！

サポーターの天野佐津子さんは、障がいのあるお子さんを育てながら定年まで仕事を続けました。職場の方や周りの方の理解、協力があってできたことへの感謝の気持ちから、時間に余裕ができたため少しでも恩返しができるかという思いで活動を始めました。

天野さんは「ちよこつとの活動の時にお礼の言葉と笑顔が返ってくる。以前から続けているボランティア活動で、リハビリをお手伝いした子どもが成長してときどき顔を見せてくれること。いろいろな方との出会いがあったことがうれしい。」と語ってくれました。

ちよこつとサポートしたい
お店が遠くて買物が大変・足腰が痛くてゴミが出せない・高い所の電球交換ができないなど高齢者や子育て世代の日常生活の困りごとを有償でお手伝いしています。

相模台

サポートセンター楽しく

今できることを、できるときにやりたい！

活動に参加する木村三男さんは、高齢の姉の世話をするなかで、「自分も年をとると他人の助けを借りることになるんだな」と感じており、楽しくサポーターの募集の話を聞いて自分が今できることを、できるときにやりたいと思い、活動を始めました。

庭木の剪定、草取り等の作業をする木村さんは、「荒れていた庭がきれいになり、喜んでもらったことや、再度自分を指名して依頼をもらったときには、活動を認めてもらったと思い、うれしい。一生懸命サポート活動をしているが、気が付かないところがあるかもしれない。注文は、遠慮なく言って欲しい。」と語ってくれました。

サポートセンター楽しく
地域の困りごとを地域のみんまで支え合う仕組みです。ちょっとした困りごとをサポーターがお手伝いしています。

相武台

支え合い(愛)相武台

活動を通して地域参加を感じる

見守り活動員の水本幾男さんは、自治会の福祉担当として相武台地区社協の福祉部会員になったことをきっかけに、支え合い(愛)相武台に誘われて活動を始めました。

水本さんは、「普段から知らない人とも知り合いになることができるのがいい経験になっていると思う。自治会や支え合い(愛)相武台の活動を始めたことで地域に参加するということを身をもって感じる事ができている。もっと多くの人に見守りの輪の中に入ってほしい、近所付き合いをする“きっかけ”になればうれしい。」と語ってくれました。

支え合い(愛)相武台
月1回程度希望する高齢者宅に訪問し、声掛けを行っています。日常の見守り活動を通して、孤立を防ぎ、お互いに声を掛け合い、助け合う関係を地域の中に築いています。

東林

東林いこいの広場

安心して楽しんでもらえるよう工夫しています

ボランティアの中山正和さんは、東林地区の福祉コミュニティ形成事業として始まったいこいの広場に東林男性ボランティアの会として、事業の立ち上げから携わっています。

中山さんは、「毎月3会場、合計7回ボランティアをすることは、大変で負担でもありますが、来場者のうれしそうな喜ぶ顔を見たときや、感謝の言葉をかけてもらうことがやりがいとなっています。現在は、毎週木曜日に開催している木曜喫茶が10月1日から再開し、コロナ禍の厳しい制約がある中で、来場者に安心して楽しんでもらえるように工夫しながら活動しています。」と語ってくれました。

東林いこいの広場
ボランティアが運営する東林いこいの広場では、食事やコーヒーを楽しみながら、気軽におしゃべりできる地域の交流の場を地区内3か所で開催しています。